

# 2019年度（20年3月期） 第2四半期累計期間 決算概要

2019年10月29日

日本電気株式会社

(<https://jpn.nec.com/ir>)

# 目次

## I.第2四半期累計期間 決算概要

## II.業績予想

## III.2020中期経営計画の進捗

### 第2四半期累計期間 決算概要（補足）

### 業績予想（補足）

- ※ 「当期利益」は、「親会社の所有者に帰属する当期利益」の金額を表示しています。
- ※ 2019年7月10日発表の「セグメントの変更のお知らせ」にてお知らせしたとおり、2019年度第1四半期連結会計期間から、セグメントを変更しています。また、2017年度、2018年度の数値についても新たなセグメントに組み替えて表示しています。
- ※ 当社は2018年度第1四半期連結会計期間からIFRS第9号、IFRS第15号を、2019年度第1四半期連結会計期間からIFRS第16号を適用しています。  
なお、累積的影響を適用開始日に認識する方法を採用し、比較情報は修正再表示していません。
- ※ 2019年3月期に取得したケーエムディ・ホールディング社の暫定的な会計処理を、2020年3月期第2四半期連結会計期間に確定させたため、2019年3月期の関連する数値を遡及修正しています。

# I .第2四半期累計期間 決算概要

(億円)

	第2四半期 <7~9月>			上期 <4~9月>		
	18年度 実績	19年度 実績	前年 同期比	18年度 実績	19年度 実績	前年 同期比
売上収益	7,235	7,951	+ 9.9%	13,364	14,490	+ 8.4%
営業利益	245	435	+ 189	138	469	+ 330
対売上収益比率 (%)	3.4%	5.5%		1.0%	3.2%	
調整後営業利益	269	478	+ 209	187	554	+ 367
対売上収益比率 (%)	3.7%	6.0%		1.4%	3.8%	
税引前利益	265	424	+ 158	218	461	+ 243
当期利益	149	259	+ 110	92	292	+ 200
対売上収益比率 (%)	2.1%	3.3%		0.7%	2.0%	
調整後当期利益	163	284	+ 122	119	343	+ 224
対売上収益比率 (%)	2.2%	3.6%		0.9%	2.4%	
フリー・キャッシュ・フロー	△ 530	△ 275	+ 255	△ 171	556	+ 728
1株当たり配当金 (円)				0	30	+ 30
参考：平均為替レート (円)	1ドル	110.83	107.57			
	1ユーロ	128.96	120.61			

# セグメント別 上期実績サマリー

第2四半期累計

(億円)

		第2四半期 <7~9月>			上期 <4~9月>		
		18年度 実績	19年度 実績	前年 同期比	18年度 実績	19年度 実績	前年 同期比
パブリック	売上収益	2,148	2,378	+ 10.7%	4,005	4,181	+ 4.4%
	調整後営業利益	98	211	+ 113	128	263	+ 134
	調整後営業利益率 (%)	4.6%	8.9%		3.2%	6.3%	
エンタープライズ	売上収益	1,147	1,206	+ 5.1%	2,101	2,349	+ 11.8%
	調整後営業利益	122	108	△ 14	160	175	+ 15
	調整後営業利益率 (%)	10.6%	9.0%		7.6%	7.4%	
ネットワーク サービス	売上収益	1,134	1,255	+ 10.6%	2,032	2,256	+ 11.0%
	調整後営業利益	74	103	+ 30	50	116	+ 66
	調整後営業利益率 (%)	6.5%	8.2%		2.4%	5.1%	
システム プラットフォーム	売上収益	1,258	1,495	+ 18.8%	2,261	2,637	+ 16.7%
	調整後営業利益	77	161	+ 84	50	208	+ 158
	調整後営業利益率 (%)	6.1%	10.8%		2.2%	7.9%	
グローバル	売上収益	1,077	1,293	+ 20.1%	1,975	2,436	+ 23.3%
	調整後営業損益	40	16	△ 24	△ 27	9	+ 36
	調整後営業利益率 (%)	3.7%	1.3%		-1.4%	0.4%	
その他	売上収益	471	325	△ 31.0%	991	631	△ 36.3%
	調整後営業利益	21	38	+ 17	50	65	+ 14
	調整後営業利益率 (%)	4.4%	11.6%		5.1%	10.2%	
調整額	調整後営業損益	△ 163	△ 160	+ 3	△ 224	△ 281	△ 57
合計	売上収益	7,235	7,951	+ 9.9%	13,364	14,490	+ 8.4%
	調整後営業利益	269	478	+ 209	187	554	+ 367
	調整後営業利益率 (%)	3.7%	6.0%		1.4%	3.8%	

(億円)

	2018年度			2019年度		
	1Q	2Q	上期	1Q	2Q	上期
<b>営業損益</b>	<b>△ 107</b>	<b>245</b>	<b>138</b>	<b>34</b>	<b>435</b>	<b>469</b>
<b>調整項目</b>	<b>25</b>	<b>24</b>	<b>49</b>	<b>42</b>	<b>43</b>	<b>85</b>
買収に伴う無形固定資産の償却費	24	24	48	42	41	83
M&A関連コスト	0	0	1	0	2	2
<b>調整後営業損益</b>	<b>△ 83</b>	<b>269</b>	<b>187</b>	<b>76</b>	<b>478</b>	<b>554</b>

合計150億円

特別転進支援施策  
91億円

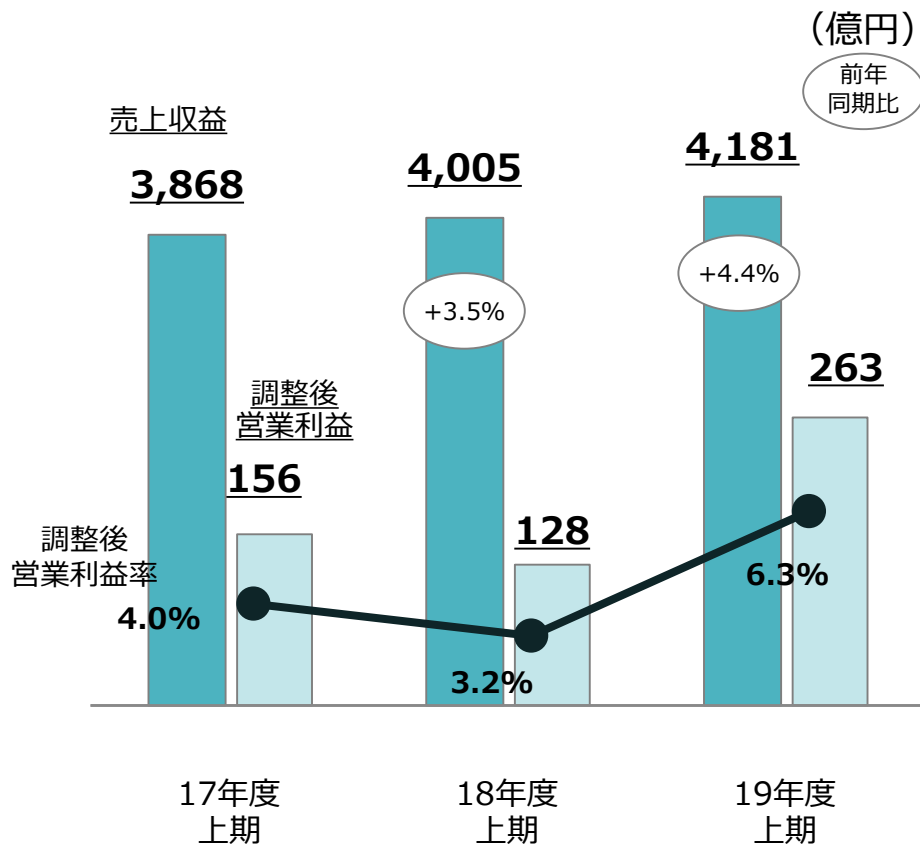
その他の施策  
58億円

## セグメント別効果額（概数）

パブリック	12億円
エンタープライズ	4億円
ネットワークサービス	8億円
システムプラットフォーム	32億円
グローバル	5億円
その他	23億円
調整額	7億円

## 効果額（概数）

海外拠点の効率化	25億円
その他 (工場再編効果、オフィスフロア効率化など)	33億円



## 売上収益 4,181億円 (+4.4%)

- 社会公共領域、社会基盤領域ともに増加

## 調整後営業利益 263億円 (+134億円)

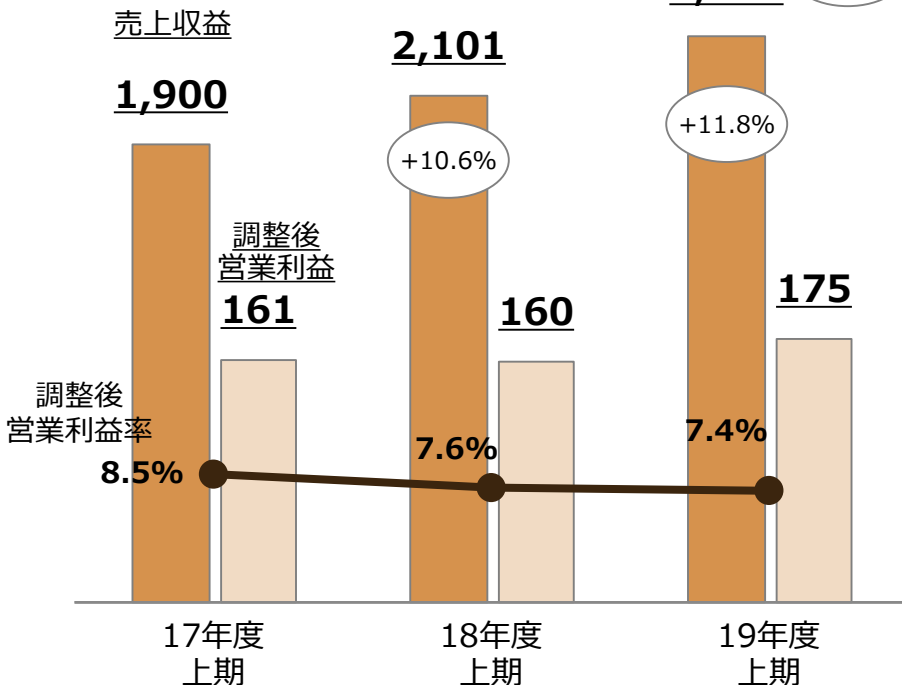
- 自治体向けITサービスや航空宇宙・防衛領域などの増加により増益

※ カッコ内の%は前年同期比



(億円)

前年  
同期比



## 売上収益 2,349億円 (+11.8%)

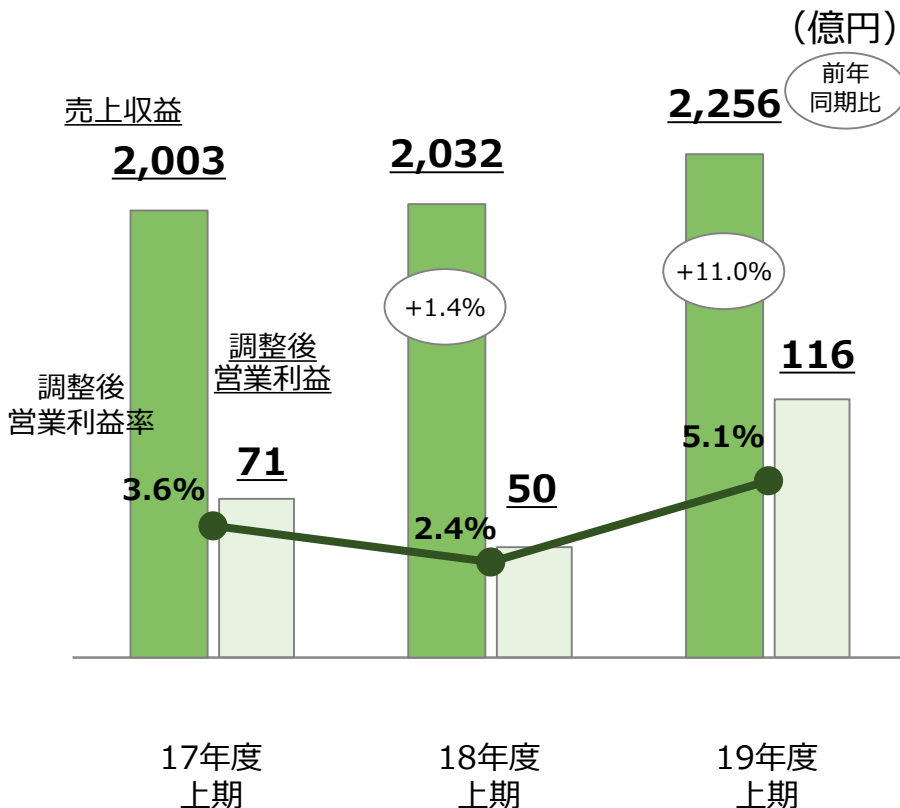
- 金融業向けの増加や売上計上部門の変更の影響などにより増収

(注) 特殊要因を除くと+4%

## 調整後営業利益 175億円 (+15億円)

- 売上増により増益

※ カッコ内の%は前年同期比



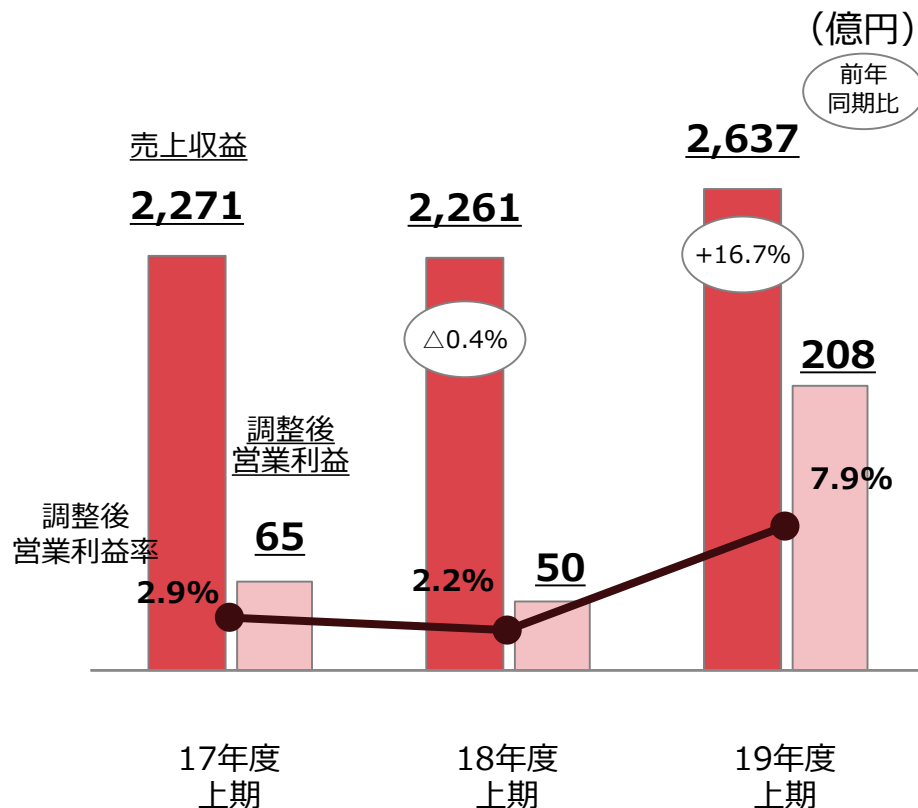
## 売上収益 2,256億円 (+11.0%)

- 固定ネットワーク領域を中心に増収

## 調整後営業利益 116億円 (+66億円)

- 売上増により増益

※ カッコ内の%は前年同期比



## 売上収益 2,637億円 (+16.7%)

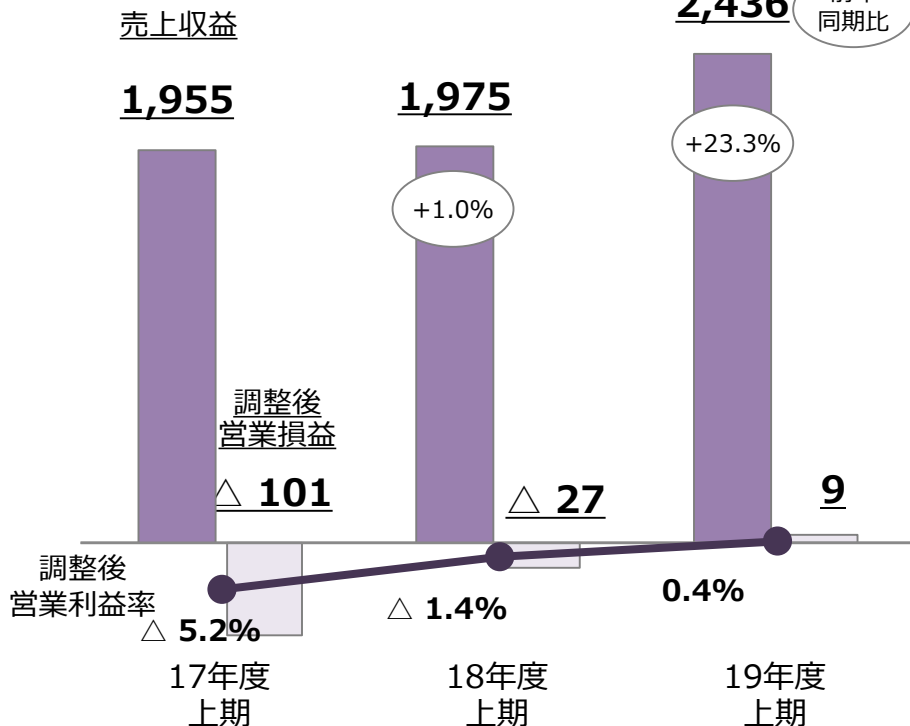
- ビジネスPCやサーバを中心にハードウェアが増加

## 調整後営業利益 208億円 (+158億円)

- 売上増に加え、構造改革効果により増益

※ カッコ内の%は前年同期比

(億円)



## 売上収益 2,436億円 (+23.3%)

- KMD新規連結によるセーフアーシティの増加、海洋システムの増加などにより増収

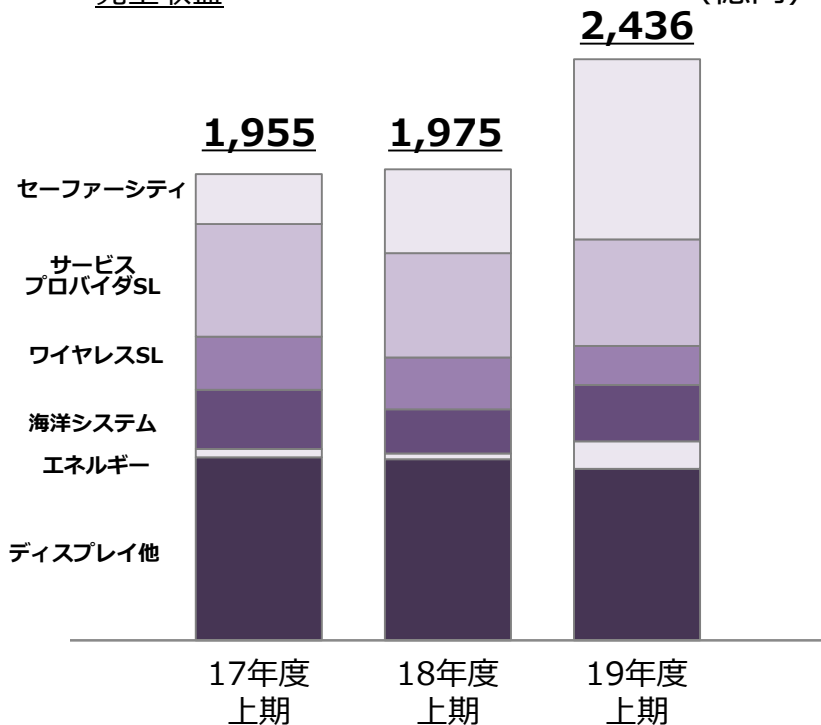
## 調整後営業損益 9億円 (+36億円)

- セーフアーシティ、サービスプロバイダソリューション、ワイヤレスソリューション海洋システムなどが改善

※ カッコ内の%は前年同期比

売上収益

(億円)



## セーフアーシティ

- KMDの新規連結により増収

## サービスプロバイダSL

- ソフトウェア・サービス、光IPともに前年並

## ワイヤレスSL

- 選別受注の徹底により減収

## 海洋システム

- 前年度の受注増を受けて増収

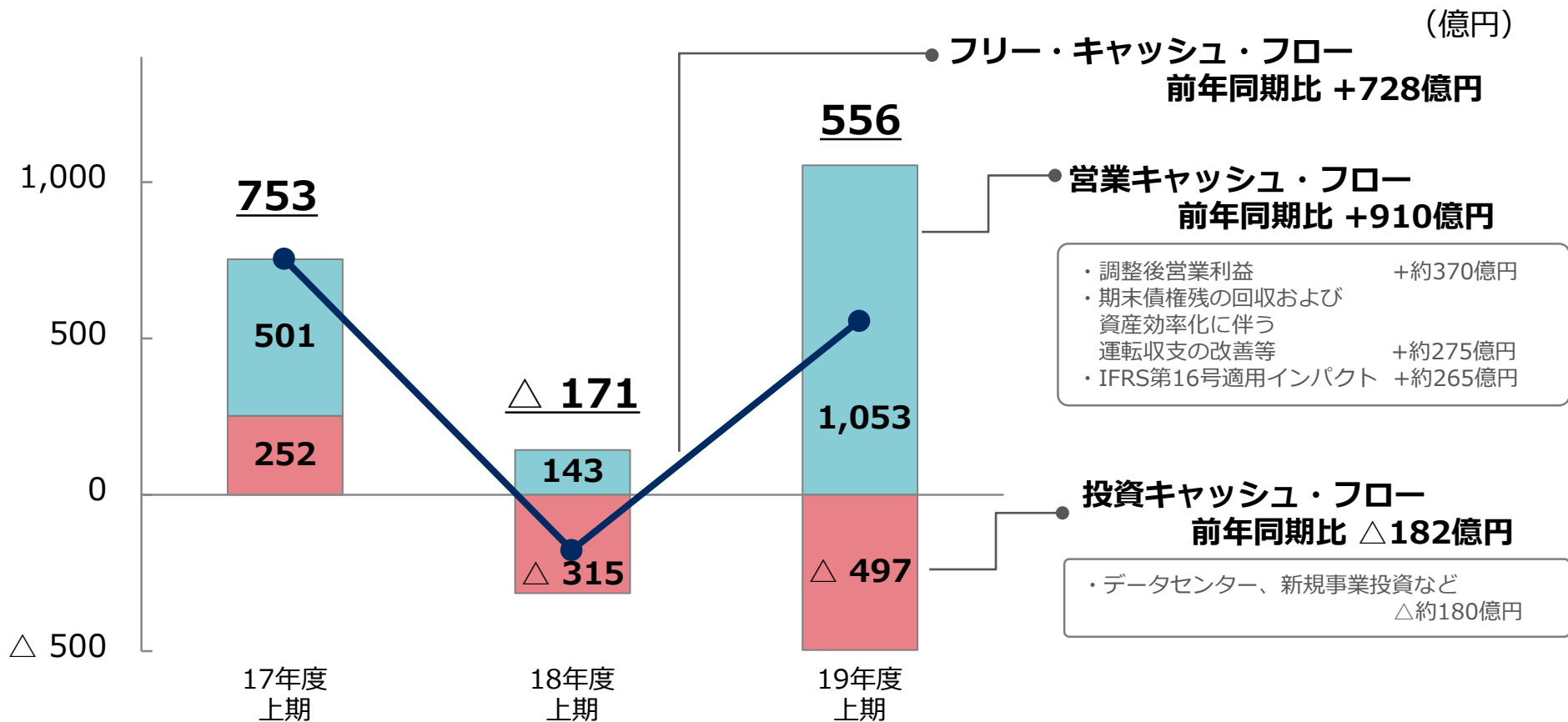
## エネルギー

- 前年度の受注増を受けて増収

## ディスプレイ

- 激しい競争環境が継続し減収

\*SL :ソリューション



## Ⅱ.業績予想

## 19年度通期予想は変更なし

	通期		
	18年度 実績	19年度 予想	前年度比
売上収益	29,134	29,500	+ 1.3%
営業利益	578	1,100	+ 522
対売上収益比率 (%)	2.0%	3.7%	
調整後営業利益	699	1,250	+ 551
対売上収益比率 (%)	2.4%	4.2%	
当期利益	397	650	+ 253
対売上収益比率 (%)	1.4%	2.2%	
調整後当期利益	469	740	+ 271
対売上収益比率 (%)	1.6%	2.5%	
フリー・キャッシュ・フロー	△ 124	650	+ 774
1株当たり配当金 (円)	40	60	+ 20
参考：平均為替レート (円)	1ドル	110.48	105.00
	1ユーロ	128.84	125.00

		通期		
		18年度 実績	19年度 予想	前年度比
パブリック	売上収益	9,080	8,950	△ 1.4%
	調整後営業利益	526	690	+ 164
	調整後営業利益率 (%)	5.8%	7.7%	
エンタープライズ	売上収益	4,318	4,300	△ 0.4%
	調整後営業利益	358	390	+ 32
	調整後営業利益率 (%)	8.3%	9.1%	
ネットワーク サービス	売上収益	4,603	4,550	△ 1.2%
	調整後営業利益	207	300	+ 93
	調整後営業利益率 (%)	4.5%	6.6%	
システム プラットフォーム	売上収益	5,002	4,800	△ 4.0%
	調整後営業利益	201	380	+ 179
	調整後営業利益率 (%)	4.0%	7.9%	
グローバル	売上収益	4,094	5,500	+ 34.4%
	調整後営業損益	△ 225	170	+ 395
	調整後営業利益率 (%)	-5.5%	3.1%	
その他	売上収益	2,037	1,400	△ 31.3%
	調整後営業利益	190	50	△ 140
	調整後営業利益率 (%)	9.3%	3.6%	
調整額	調整後営業損益	△ 557	△ 730	△ 173
合計	売上収益	29,134	29,500	+ 1.3%
	調整後営業利益	699	1,250	+ 551
	調整後営業利益率 (%)	2.4%	4.2%	

(注) フリー・キャッシュ・フロー予想値にはIFRS第16号「リース」適用の影響を含んでいません

※ 予想値は2019年10月29日現在



## 上期の国内事業の受注は好調

### パブリック（社会公共・社会基盤領域）

- 自治体向けなどを中心に好調が持続

### エンタープライズ

- 流通・サービス業向けが堅調に推移

### ネットワークサービス

- 5G導入を見据えた固定ネットワークの整備が活発化

### システムプラットフォーム

- 企業向けPCを中心に増加

連結ベースの受注動向  
（前年同期比）

109%

100%  
（特殊要因を除く）

104%

110%

# 通期計画に対する考え方

## 国内

- 好調な事業環境を背景に上期は全セグメントで増収・増益
- 上期は期初の想定を超える増益を実現  
通期計画に対しても上振れを目指す

## グローバル

- セーフアーシティ、サービスプロバイダSL、ワイヤレスSLなどの改善により上期黒字化を達成
- 上期のエネルギー、ディスプレイは想定に届かず  
通期計画に対するリスクの解消に努める

\*SL : ソリューション

## Ⅲ.2020中期経営計画の進捗

## ワイヤレスSL、サービスプロバイダSLの上期黒字化

### セーフアーシティ

- NPS、KMDのM&A後のPMIは順調
- スターアライアンス協業

### サービスプロバイダSL

- 欧州Tier1キャリア向け仮想化プロジェクトが着実に進捗

\*SL : ソリューション

## NISTの顔認証技術評価で5度目となる第1位評価を獲得

## お客様との共創活動を推進

- 顔認証技術を搭載したセブン銀行向け次世代ATMの導入を開始
- ローソンが実施するスマート店舗(深夜省人化)実験において  
入店管理システムなどを提供

## グローバルな社会課題解決への貢献

- 国連WFPの食料支援の受益者管理システムに関する技術パートナーシップを締結
- Gaviワクチンアライアンス、英国ベンチャー企業と途上国の予防接種率向上に  
向けた生体認証活用で覚書を締結

\*国連WFP : 国連世界食糧計画 (World Food Programme)  
\*Gavi : The Global Alliance for Vaccines and Immunisation

NTTドコモ向けに5G基地局（RU）を出荷開始

楽天モバイルより5G基地局（RU）を受注

ローカル5Gを活用した産業のDX実現に向けて  
多数の企業と共創活動・実証実験を推進中

- [鉄道] IoT設備監視システム、保守作業効率化など
- [リテール] 店舗内業務効率化、顧客行動分析など
- [建設] 建機の自動自律運転システム（大林組、大裕）
- [製造] 工場オートメーション、倉庫自動搬送システムなど

ラグビーワールドカップ<sup>®</sup>2019™で  
次世代の業務用無線システムを試験提供

\*RU : Radio Unit



TM © Rugby World Cup Limited 2015. All rights reserved.

## 働きやすい環境づくり

- Co-workingスペース「BASE」を設置
- テレワーク環境の推進（テレワーク・デイズに4万人参加）
- コアタイムのない「スーパーフレックス」を導入



## 行動基準「Code of Values」と評価方式「9Blocks」を国内外の関係会社にも展開

## 執行役員のパジション数削減、1年任期の委任契約に変更、役員報酬制度の刷新と開示

## IR Dayなどステークホルダーを巻き込んだ改革

# Orchestrating a brighter world

未来に向かい、人が生きる、豊かに生きるために欠かせないもの。  
それは「安全」「安心」「効率」「公平」という価値が実現された社会です。

NECは、ネットワーク技術とコンピューティング技術をあわせ持つ  
類のないインテグレーターとしてリーダーシップを発揮し、  
卓越した技術とさまざまな知見やアイデアを融合することで、  
世界の国々や地域の人々と協奏しながら、  
明るく希望に満ちた暮らしと社会を実現し、未来につなげていきます。



 **Orchestrating** a brighter world

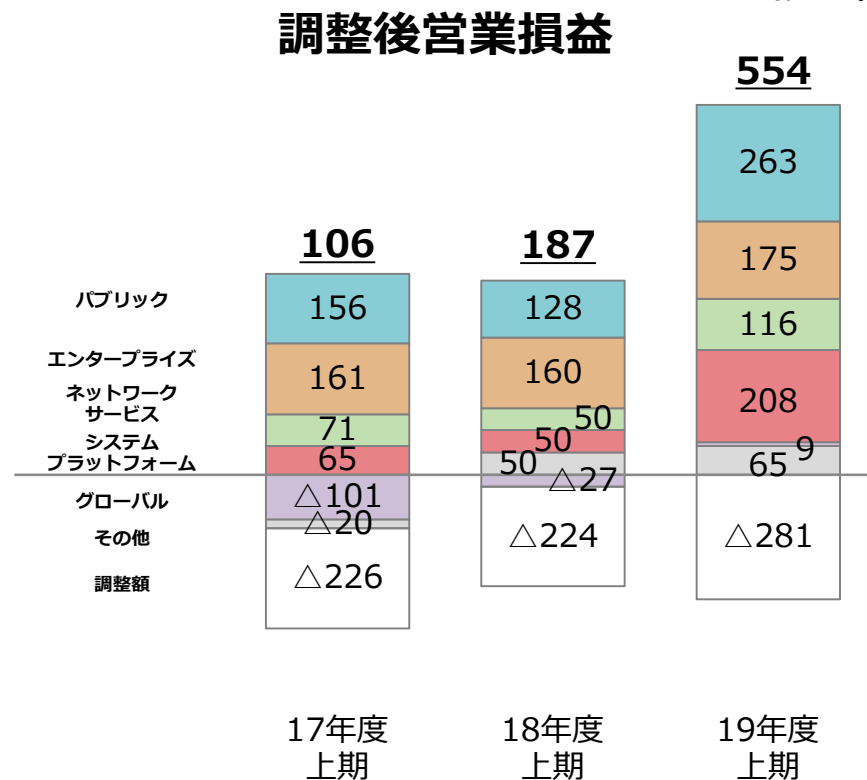
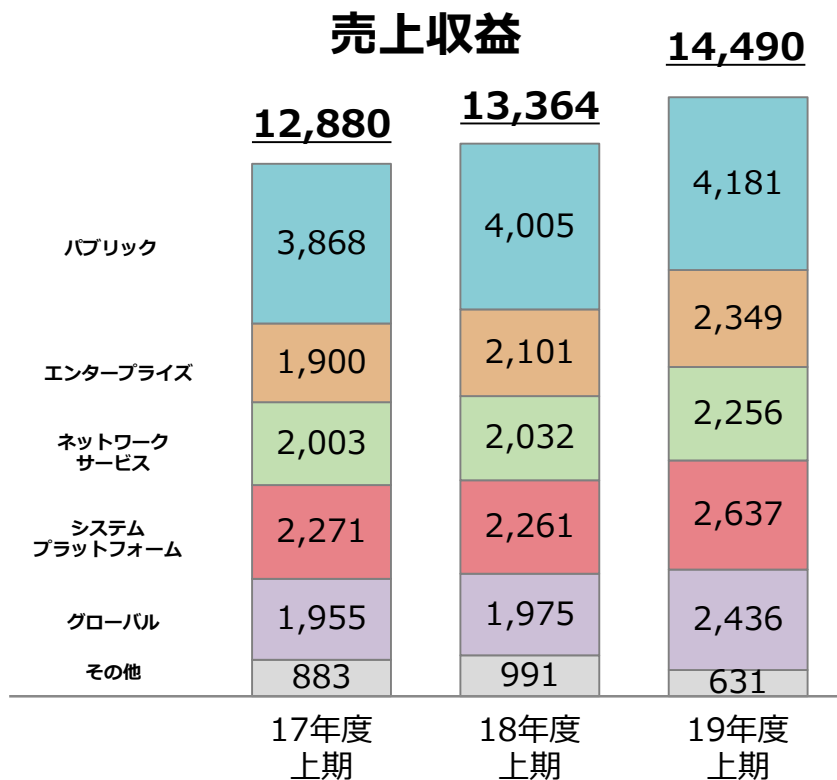
**NEC**

# 決算概要（補足）

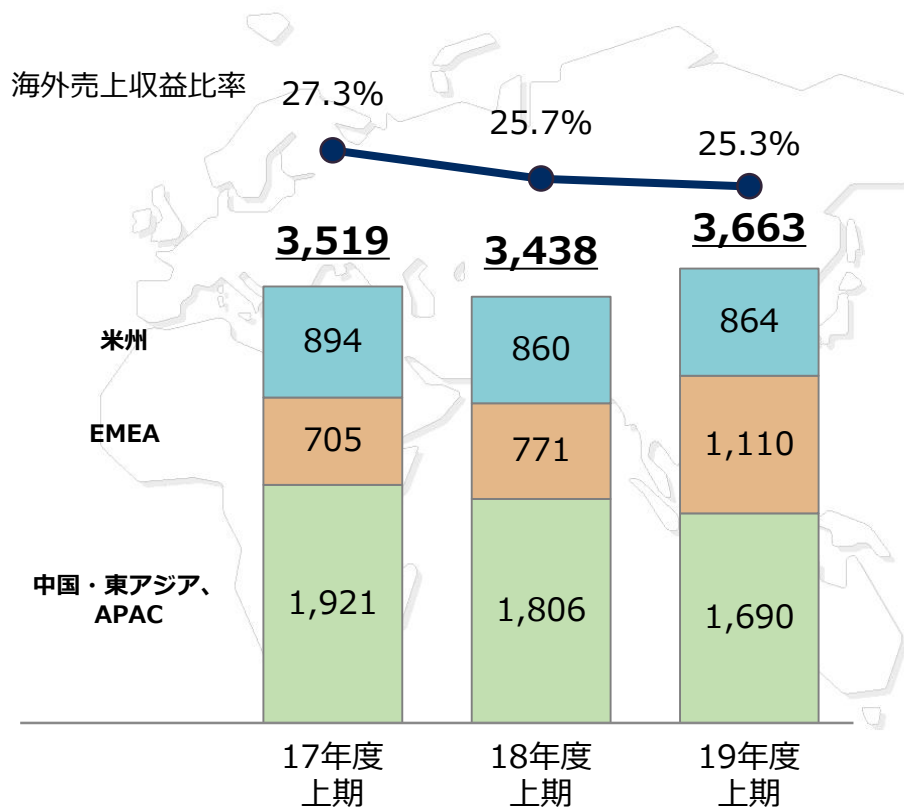
# セグメント別 上期実績 (3カ年推移)

第2四半期累計

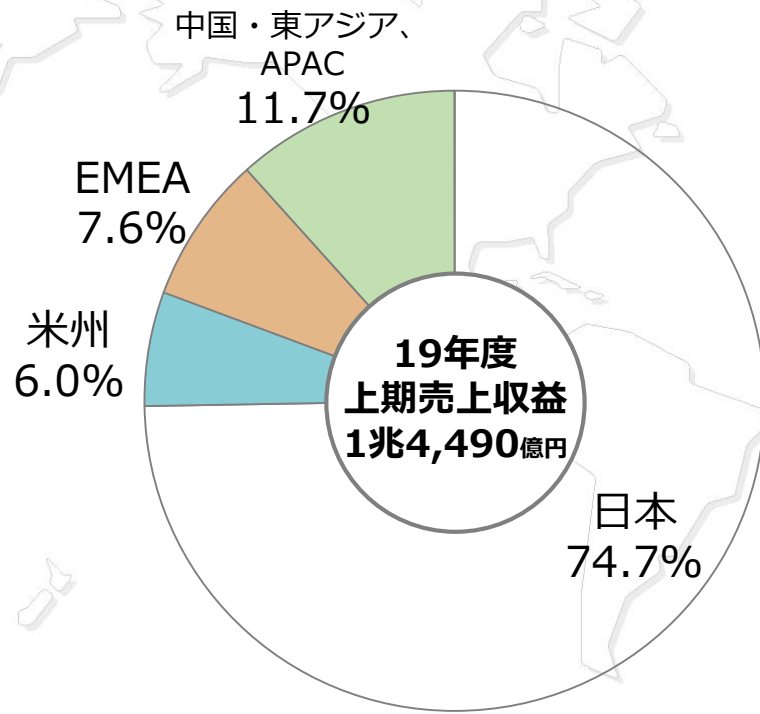
(億円)



(億円)



## 地域別売上収益



※ 売上収益は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しています

(億円)

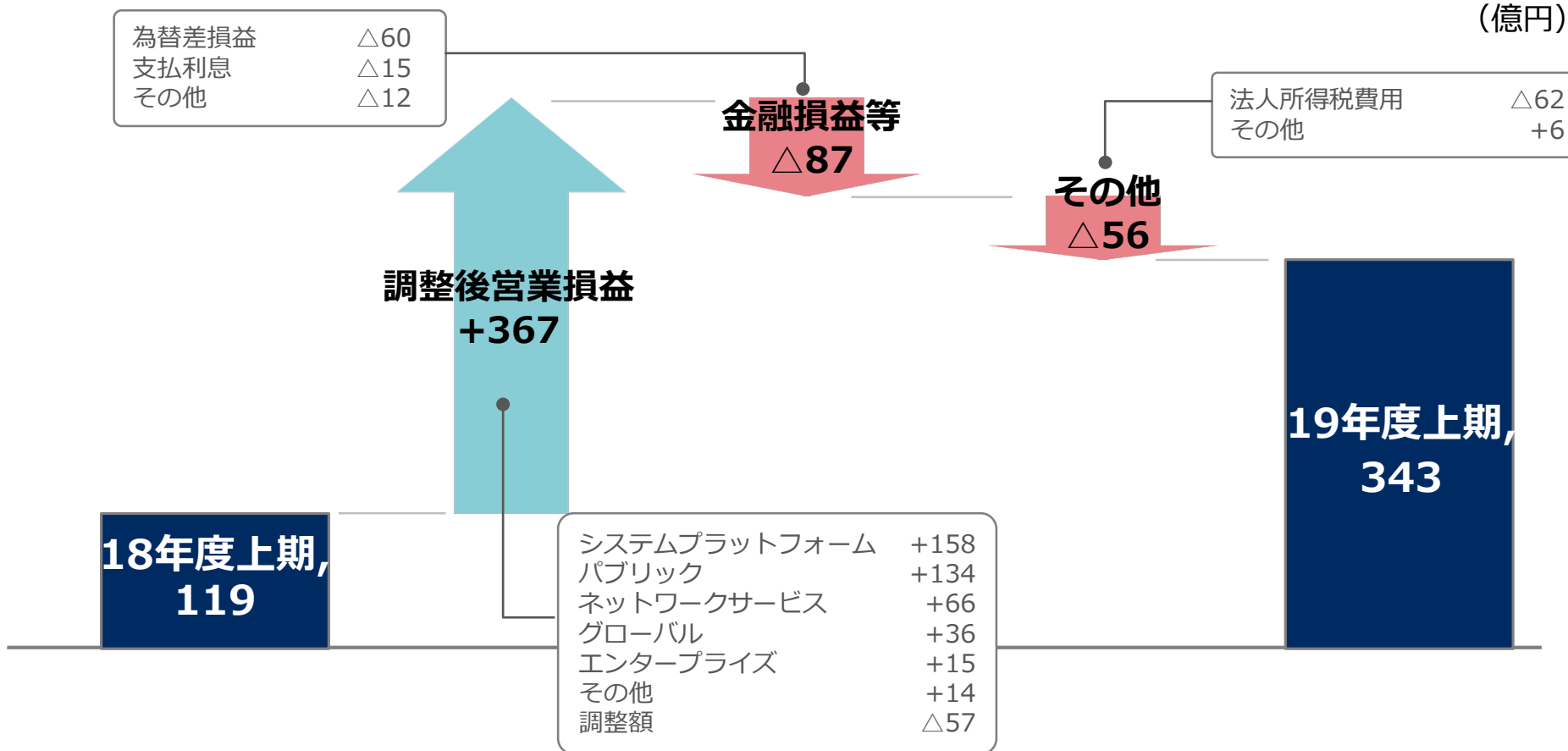
	19/3末	19/9末	19/3末比
資 産	29,632	29,837	+ 205
資 本	10,597	10,580	△ 17
有 利 子 負 債 残 高	5,525	6,819	+ 1,294
親会社の所有者に帰属する持分	8,589	8,587	△ 2
親会社所有者帰属持分比率 (%)	29.0%	28.8%	△ 0.2pt
D / E レ シ オ ( 倍 )	0.64	0.79	△ 0.15pt
ネット D / E レ シ オ ( 倍 )	0.32	0.48	△ 0.16pt
現金及び現金同等物の期末残高	2,783	2,700	△ 83

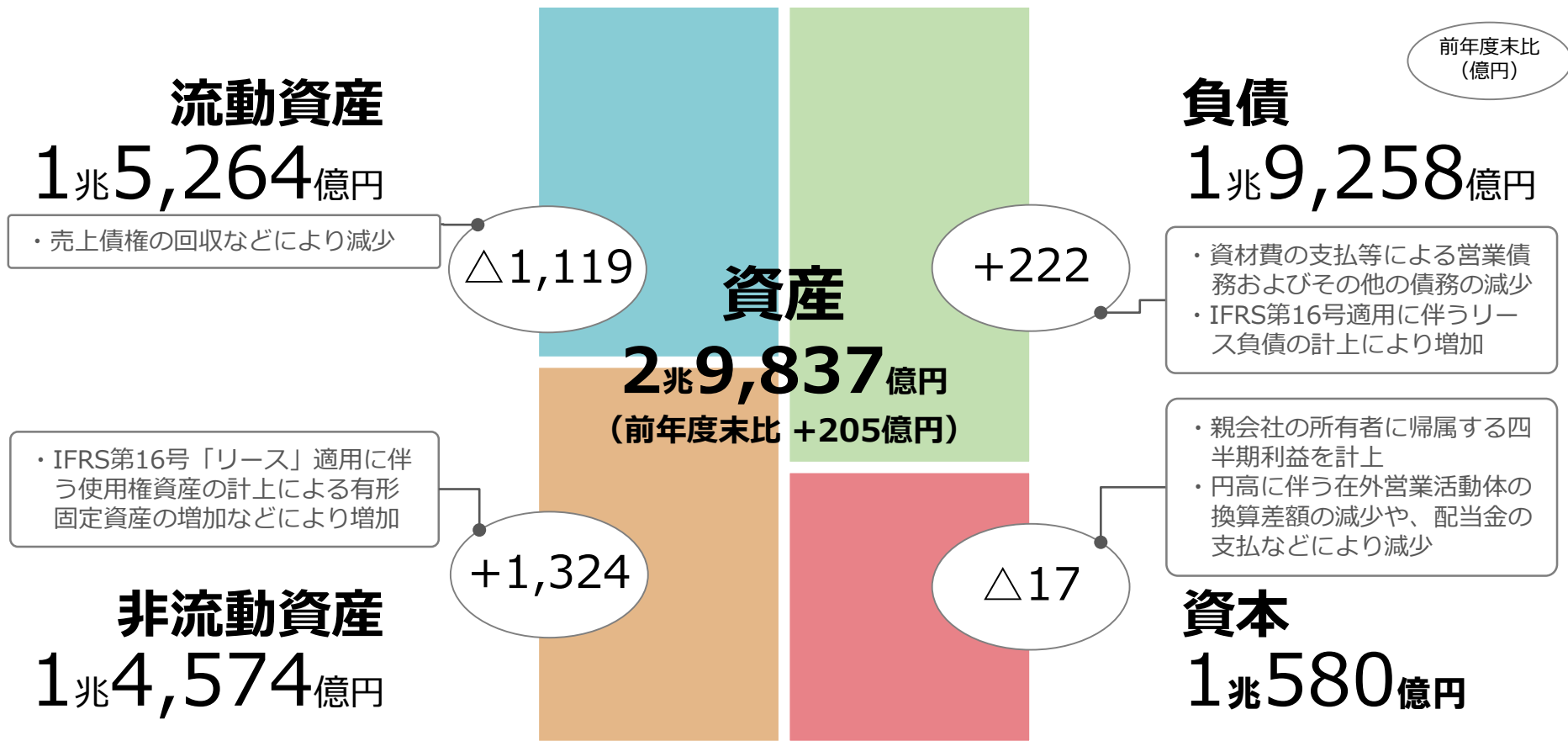
IFRS第16号「リース」適用の影響により、2019年9月末時点の資産・負債（有利子負債）が約1,700億円増加

# 調整後当期利益増減（前年同期比）

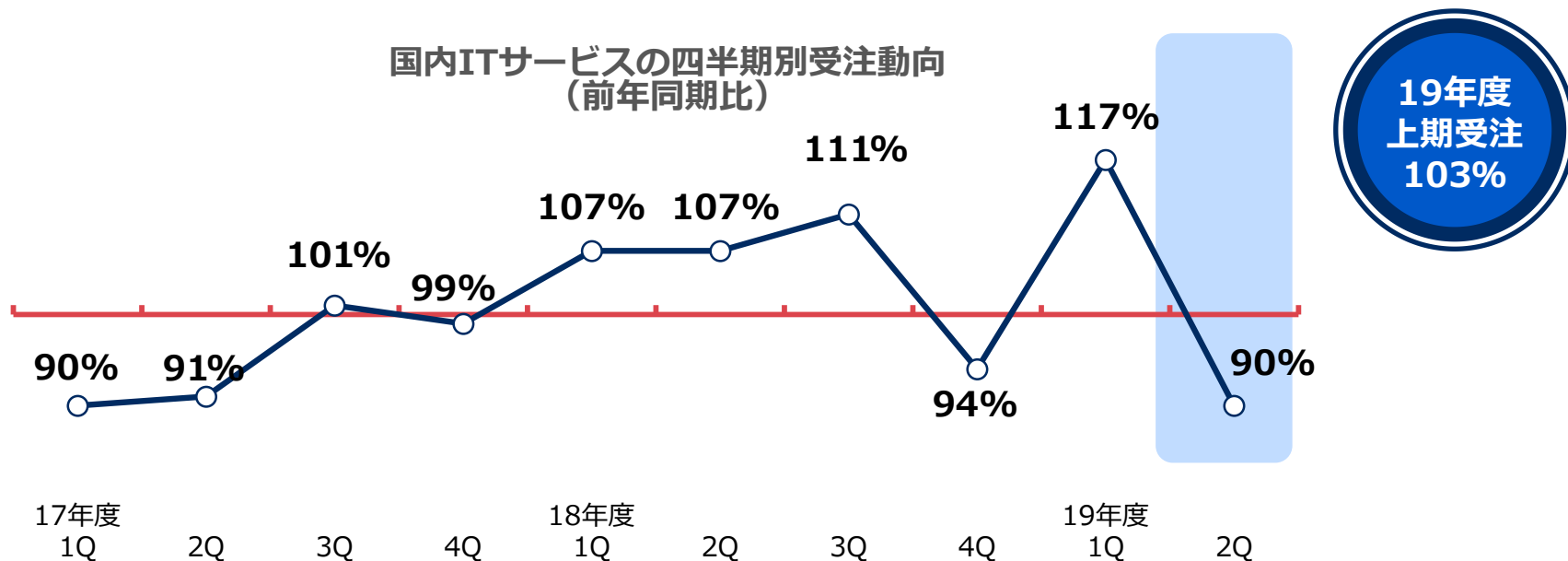
第2四半期累計

(億円)



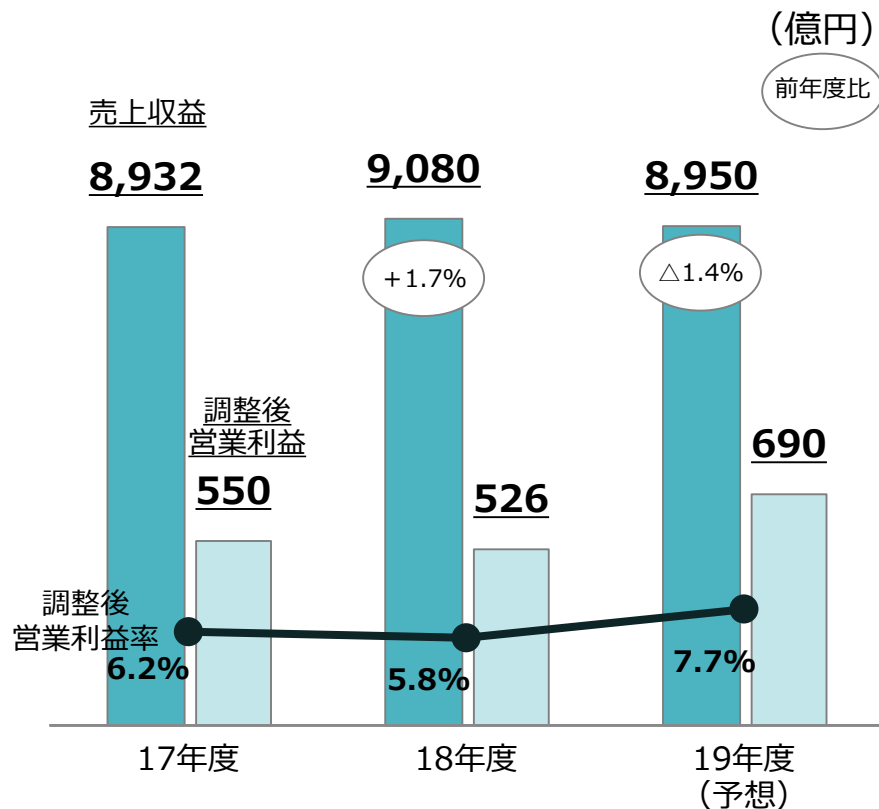


## 19年度上期の国内ITサービス受注は公共、官公などにより増加





# 業績予想（補足）



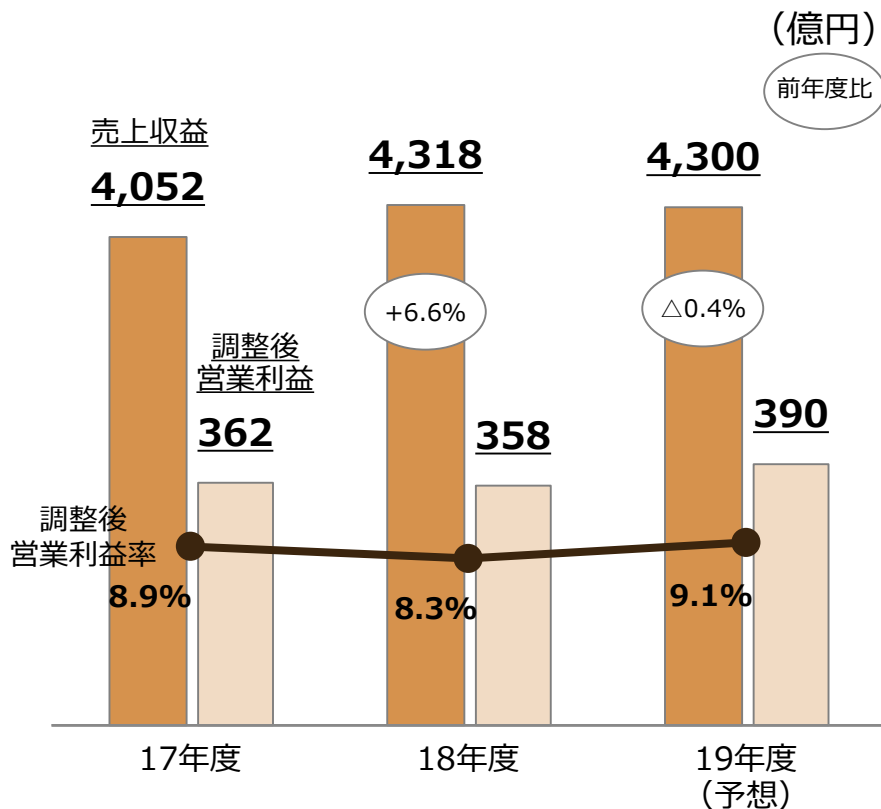
## 売上収益 8,950億円 (△1.4%)

- 社会公共領域はほぼ前年並を計画
- 社会基盤領域は前年度の大型案件の減少により減収を見込む

## 調整後営業利益 690億円 (+164億円)

- 売上は減少も、不採算案件の抑制や構造改革効果により増益を見込む

※ 予想値は2019年10月29日現在、カッコ内の%は前年度比



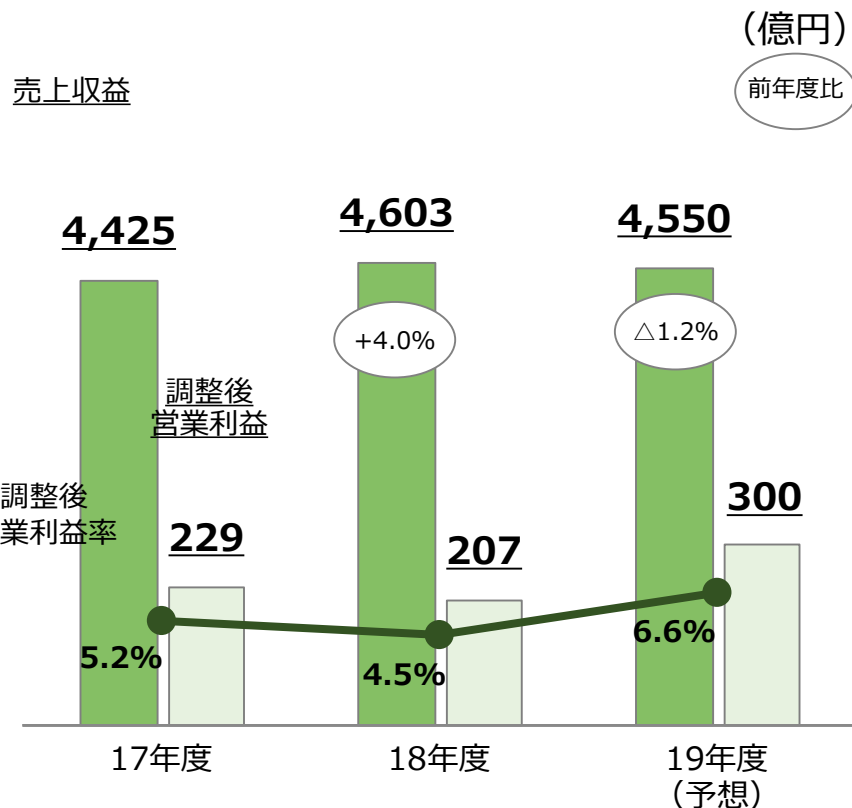
## 売上収益 4,300億円 (△0.4%)

- 好調であった前年並の水準を計画

## 調整後営業利益 390億円 (+32億円)

- 構造改革効果により増益を見込む

※ 予想値は2019年10月29日現在、カッコ内の%は前年度比



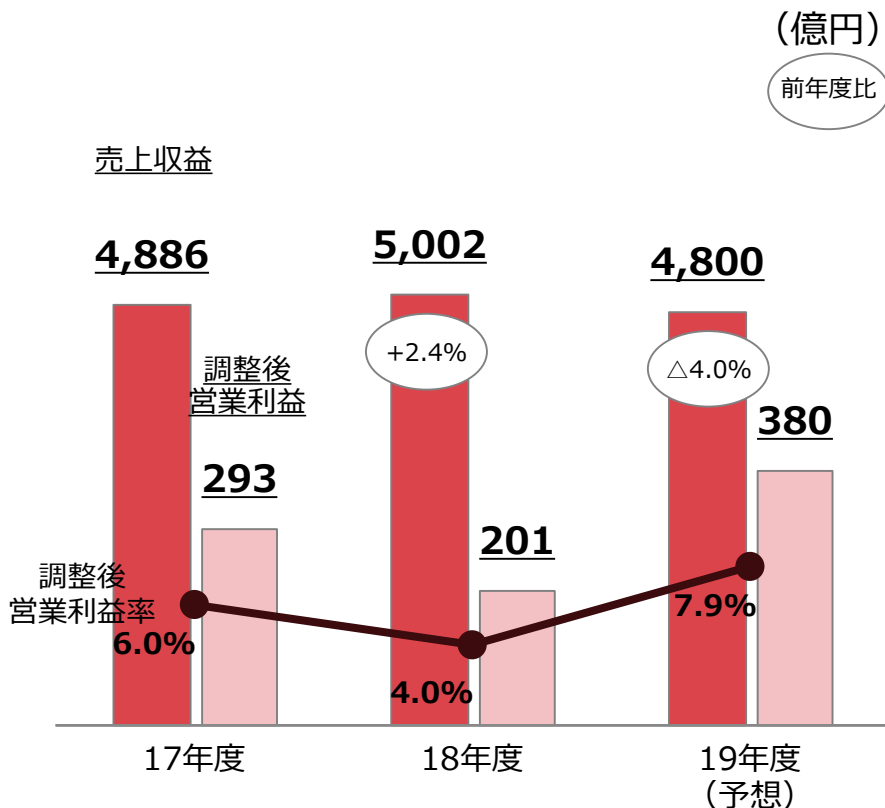
## 売上収益 4,550億円 (△1.2%)

- 通信事業者の設備投資が依然として低調に推移しており、ほぼ横ばいを見込む

## 調整後営業利益 300億円 (+93億円)

- 構造改革効果や前年度の不採算プロジェクトの改善により増益を見込む

※ 予想値は2019年10月29日現在、カッコ内の%は前年度比



## 売上収益 **4,800億円** (△4.0%)

- 前年度に更新需要のあったビジネスPCの減少により減収を見込む

## 調整後営業利益 **380億円** (+179億円)

- 構造改革費用の減少および構造改革効果により増益を見込む

※ 予想値は2019年10月29日現在、カッコ内の%は前年度比

(億円)

前年度比

売上収益

4,205

4,094

5,500

△2.6%

+34.4%

170

3.1%

調整後  
営業利益率

調整後  
営業損益

△ 5.7%

△ 5.5%

△ 240

△ 225

17年度

18年度

19年度  
(予想)

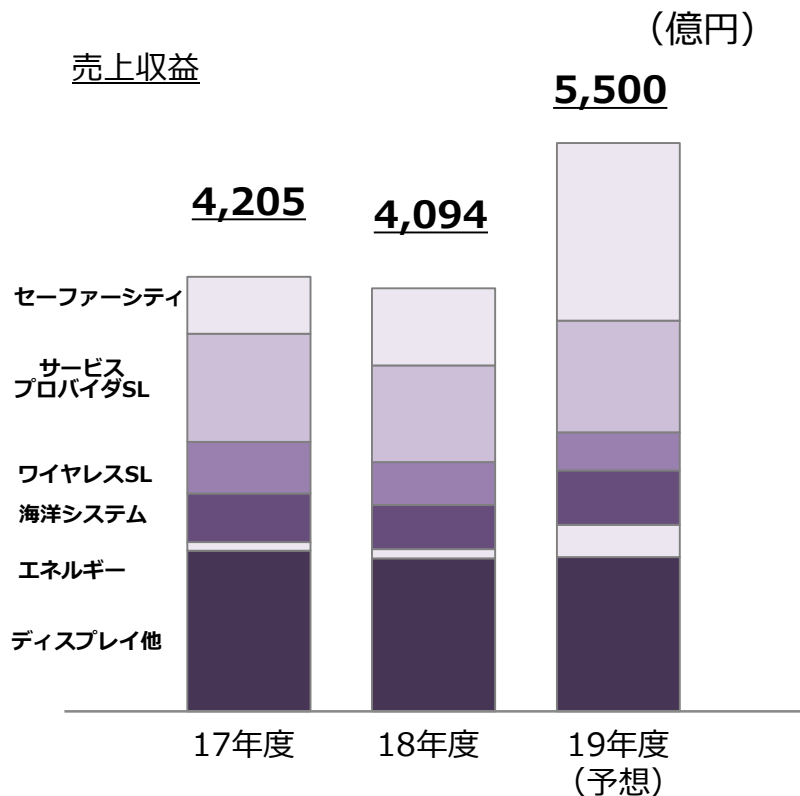
## 売上収益 5,500億円 (+34.4%)

- セーフアーシティ、サービスプロバイダソリューション、海洋システムなどの増加を見込む

## 調整後営業損益 170億円 (+395億円)

- 前年度に計上した資産減損、構造改革費用など一過性費用の減少および構造改革効果などにより黒字化を見込む

※ 予想値は2019年10月29日現在、カッコ内の%は前年度比



## セーフアーシティ

- KMDの新規連結により増収を見込む

## サービスプロバイダSL

- ソフトウェア・サービス、光IPともに増収を見込む

## ワイヤレスSL

- 収益性重視で選別受注を徹底し減収を見込む

## 海洋システム

- 前年度の受注増を受けて増収を見込む

## エネルギー

- 前年度の受注増を受けて増収を見込む

## ディスプレイ

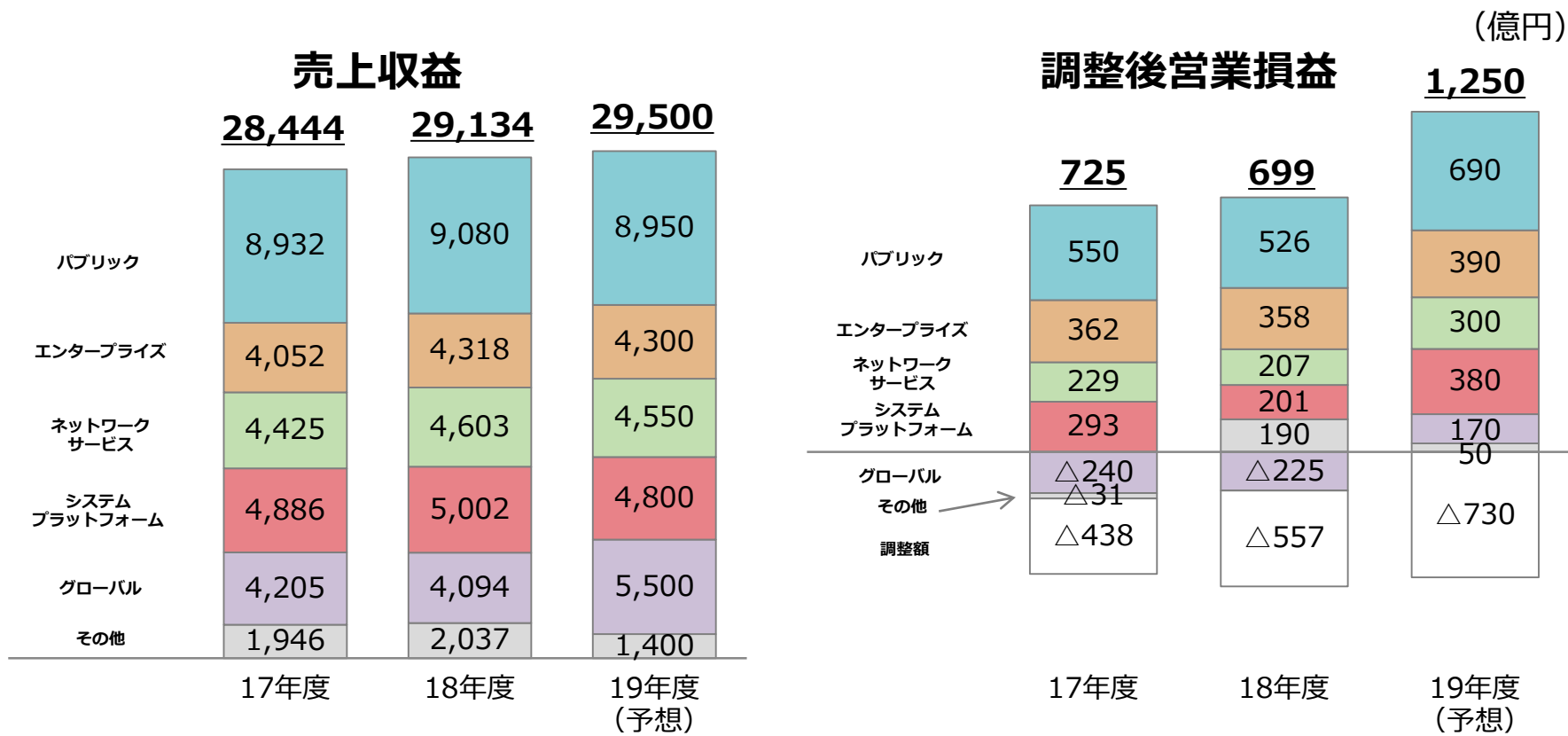
- 北米での競争激化による減収からの回復を見込む

※ 予想値は2019年10月29日現在

\*SL : ソリューション

# セグメント別 業績予想 (3カ年推移)

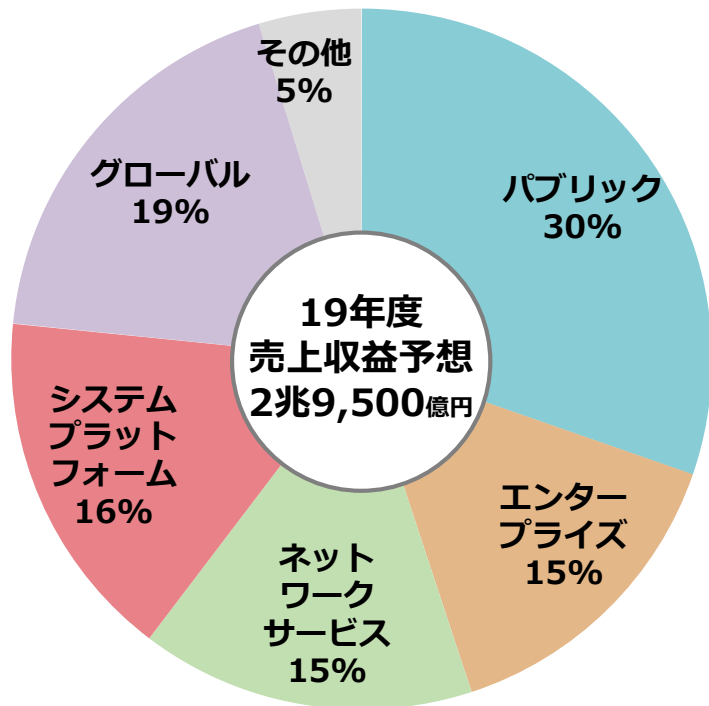
19予想



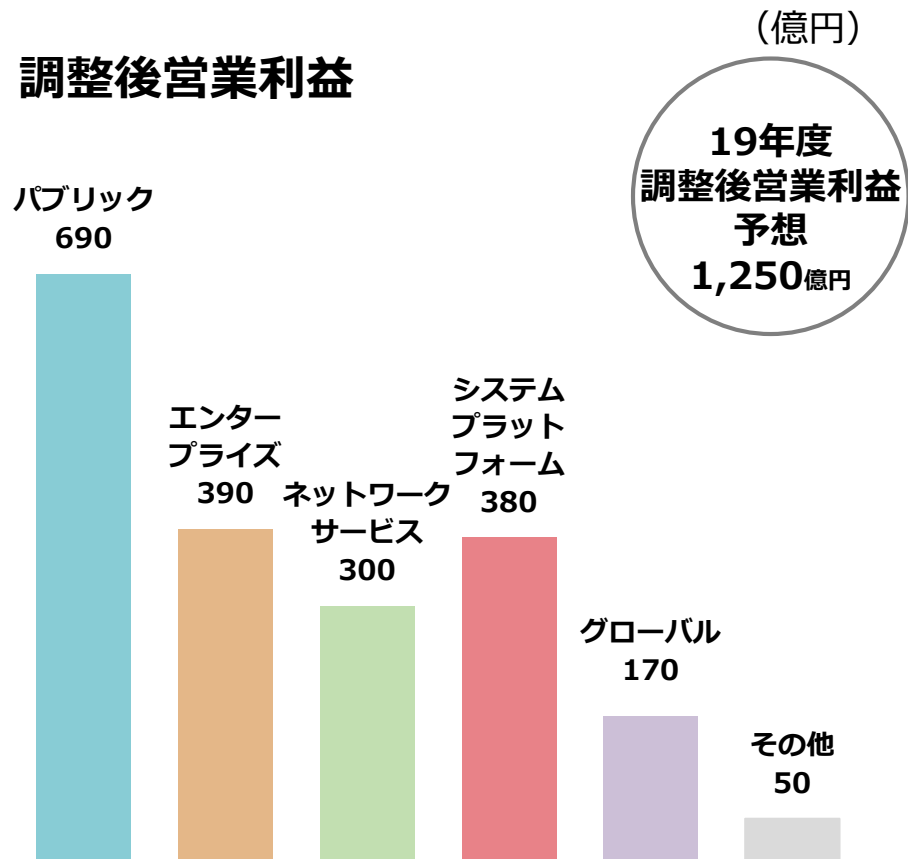
※ 予想値は2019年10月29日現在



### 売上収益



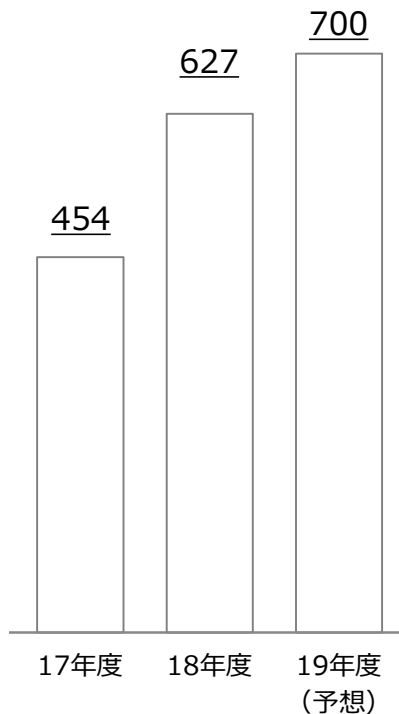
### 調整後営業利益



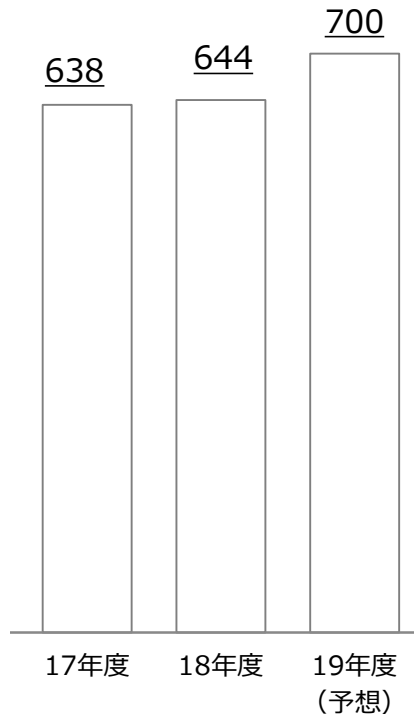
※ 予想値は2019年10月29日現在

(億円)

## 設備投資額

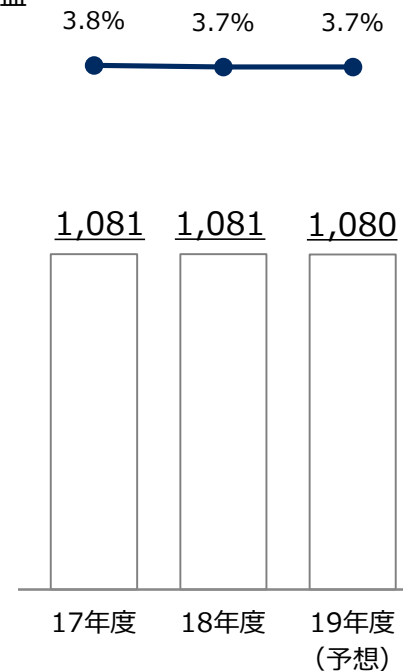


## 減価償却費



## 研究開発費

売上収益  
比率



(注) 設備投資額、減価償却費にはIFRS第16号「リース」適用の影響を含んでいません

※ 予想値は2019年10月29日現在

# <将来予想に関する注意>

本資料に記載されているNECグループに関する業績、財政状態その他経営全般に関する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいております。これらの判断および前提は、その性質上、主観的かつ不確実です。また、かかる将来に関する記述はそのとおりに実現するという保証はなく、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。その要因のうち、主なものは以下のとおりですが、これらに限られるものではありません。

- ・ 経済動向、市況変動、為替変動および金利変動
- ・ NECグループがコントロールできない動向や外部要因による財務および収益の変動
- ・ 企業買収等が期待した利益をもたらさない、または、予期せぬ負の結果をもたらす可能性
- ・ 戦略的パートナーとの提携関係の成否
- ・ 海外事業の拡大が奏功しない可能性
- ・ 技術革新・顧客ニーズへの対応ができない可能性
- ・ 製造工程に関する問題による減収または需要の変動に対応できない可能性
- ・ 製品・サービスの欠陥による責任追及または不採算プロジェクトの発生
- ・ 供給の遅延等による調達資材等の不足または調達コストの増加
- ・ 事業に必要な知的財産権等の取得の成否およびその保護が不十分である可能性
- ・ 第三者からのライセンスが取得または継続できなくなる可能性
- ・ 競争の激化により厳しい価格競争等にさらされる可能性
- ・ 特定の主要顧客が設備投資額もしくはNECグループとの取引額を削減し、または投資対象を変更する可能性
- ・ 顧客が受け入れ可能な条件でのベンダーファイナンス等の財務支援を行えない可能性および顧客の財政上の問題に伴い負担する顧客の信用リスクの顕在化
- ・ 優秀な人材を確保できない可能性
- ・ 格付の低下等により資金調達力が悪化する可能性
- ・ 内部統制、法的手続、法的規制、環境規制、税務、情報管理、人権・労働環境等に関連して多額の費用、損害等が発生する可能性
- ・ 自然災害や火災等の災害
- ・ 会計方針を適用する際に用いる方法、見積および判断が業績等に影響を及ぼす可能性、債券および株式の時価の変動、会計方針の新たな適用や変更
- ・ 退職給付債務にかかる負債および損失等が発生する可能性

将来予想に関する記述は、あくまでも本資料の日付における予想です。新たなリスクや不確定要因は随時生じ得るものであり、その発生や影響を予測することは不可能であります。また、新たな情報、将来の事象その他にかかわらず、当社がこれら将来予想に関する記述を見直すとは限りません。

(注) 年度表記について、18年度は2019年3月期、19年度は2020年3月期（以降も同様）を表しています。